

知識・技能を活用する力とそれを評価する問題（「合教科・科目型」）について（案）

知識・技能を活用する力

既得の知識・技能を用いて、情報を解釈・分析・評価し、課題の発見と解決のため必要な構想を立て、実践し、評価・改善することなどを通じて、解決のための方策を見だし提示するために必要とされる力

（参考）

学校教育法第30条第2項においても、いわゆる学力の三要素の一つとして「知識・技能を活用して課題を解決するための必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」を示しているところである。こうした力は、例えば、①概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動、②情報を分析・評価し、論述する活動、③課題について構想を立て実践し、評価・改善する活動等を通じて育成されるものとされ、小中高等学校等における言語活動等の学習活動において重視されている。



このような力を評価するためには、個々の教科・科目の範囲にとどまらず、複数の教科・科目の内容を教科横断的・総合的に組み合わせて出題することが必要。

※ 「教科を超える知識・技能の活用力」としては、たとえば以下のような力が挙げられる

- ・ 言語に関する知識・技能の活用力（読解力、要約力、表現力、コミュニケーション力等を含む。）
- ・ 数に関する知識・技能の活用力（統計的思考力、論理的思考力、図やグラフを描いたり読んだりする力等を含む。）
- ・ 科学に関する知識・技能の活用力（モデルをつくって説明する力、計画を立てる力、抽象化する力、大ざっぱに推定する力等を含む。）
- ・ 社会に関する知識・技能の活用力（合理的思考力、歴史や社会の問題を特定し、議論の焦点を定める力、矛盾点をあらわにする力等を含む。）
- ・ 問題発見・解決力（答えのない問題に答えを見出す力、問題の構造を定義する力、問題解決の道筋を文脈に応じて定める力等を含む。）
- ・ 情報活用力（情報を収集する力、情報を整理する力、情報を表現する力、情報を的確に伝達する力等を含む。）

合教科・科目型の設計のイメージ（案）

- 1) 評価する活用力（上記※）を明確化。
- 2) 明確化された活用力が、どの教科・科目等において主に育成されるかを特定。
例えば・・・ 言語 ⇒ 国語・英語、 数 ⇒ 数学、 科学 ⇒ 理科、 社会 ⇒ 地歴又は公民
問題発見・解決力 ⇒ 総合及び各教科・科目、 情報活用能力 ⇒ 情報
- 3) これらの各教科・科目等の内容をベースに、他教科・科目等との組合せの在り方を検討しつつ、活用力を問う問題を作問。

◆全国学力・学習状況調査

教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)のうち、主として「活用」に関する問題(いわゆるB問題)

◆OECD生徒の学習到達度調査(PISA)

読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野について、以下の3側面が扱われる。

- ①生徒が各分野で習得する必要がある「知識領域」
- ②生徒が用いなければいけない「関係する能力」
- ③知識・技能の応用やそれが必要とされる「状況・文脈」

◆情報活用能力調査

情報活用能力を構成する次の3つの観点から出題。

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

※調査問題の範囲は、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等で実施することが想定される学習活動とする。

◆PISA問題解決能力調査

解決の方法が直ぐには分からない問題状況を理解し、問題解決のために、認知的プロセスに関わろうとする個人の能力(進んで問題解決に関わろうとする意志も含まれる)を測ることとしている。

測定の対象となる認知的プロセスは、①探究・理解、②表現・定式化、③計画・実行 ④観察・熟考。